

多国間核軍縮交渉の前進に関する公開作業部会 5 月会合 広島市長メッセージ

議長、発言の機会をいただき、感謝申し上げます。本日、被爆地広島の前市長として、また、世界 161 か国・地域の 7,028 都市が加盟する平和首長会議の会長として発言いたします。

最初に、去る 4 月 11 日に、米国のケリー国務長官が G7 外相会合のメンバーとして広島平和記念資料館を視察し、原爆死没者慰霊碑に献花した後の記者会見において、「核兵器のない平和な世界を作るために私たちが尽力しなければならない責任を思い起こさせてくれた。」と述べたことを紹介したいと思います。我々は、市民社会の幅広いパートナーと力を合わせ、そうした思いを全力で後押しします。また、そうすることが我々の市民、そして全人類の利益に繋がると確信しており、立場の違いを超え、共通の価値を育む国際的な環境を整備するための努力をさらに強化していきます。

そのうえで、我々平和首長会議は、国連総会の下に第二回公開作業部会が設置され、この部会において、全ての国連加盟国を対象とする、核兵器禁止条約の締結とそのための交渉に向けた建設的かつ実践的な議論が行われることを強く希望します。

現在、世界の安全保障体制は、相互不信を背景に「抑止力」という核兵器使用の脅しとそれに伴う言語に絶する恐怖に大きく依存していると言われていています。しかし、核抑止政策は為政者の頭の中にある観念の産物にすぎません。なぜかという、「核抑止」という仕組みそのものが現今の国際問題の根本的な解決に何らの有用性を持ち得ないばかりか、核兵器は、テロの防止や、テロへの対処の役には立たず、むしろ、その存在により、新たな使用のリスクを日々高めるものになっているからです。

こうした現今の国際問題に対応するためには、国際社会、とりわけ都市が連帯して、一般市民の平和への切なる願いを基礎とした核兵器に依存しない安全保障を目指すことを明確にし、それへの取組を強化することが急務となっています。だからこそ我々は、皆同じ人類の一員であるとの同胞意識の下に結束し、相互理解を深め、多様性を尊重する世界の実現を重要視します。そして同様に我々は、ユネスコ憲章の、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という言葉に想起します。平和を実現し、守っていくことを願うとき、核兵器廃絶は必ず必要となるのです。

世界の為政者は、今こそ発想を転換し、果敢なリーダーシップを発揮すべきです。為政者の核兵器の廃絶に向けた明確な決意は、必ずや核軍縮・不拡散のための取組を加速させます。世界の為政者に、被爆地の訪問を通じて、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という被爆者の思いを理解してもらいたいと願っている広島・長崎は、核兵器廃絶の障害となるあらゆる課題に対して、各国が同胞意識を持って協力し、核軍縮の推進と核兵器禁止条約の締結に向けた取組が調和する議論展開をして欲しいと考えています。

公開作業部会にご参加の皆さんには、あらゆる可能性を排除せず、相互理解と多様性の尊重を促進しつつ、建設的かつ実践的な議論をしていただきたいと思います。平和首長会議は、幅広い市民社会のパートナーと共に、平和という共通の目標に向けた取り組みの実施と支援に全力を注ぐことを誓います。

ご清聴有難うございました。